

ドセタセル+PSL【泌尿器】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		デキート注射液	副作用を予防するお薬です。
2		ドセタセル点滴静注	治療のためのお薬です。 約1時間かけて点滴を行います。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		プロドニン錠	治療のお薬です。 1日2回朝・昼食後に1回1錠服用します。
2		シガマビタ配合カプセルB25	ビタミン剤です。治療により起こるしびれ等を予防します。しっかり服用しましょう

投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
ドセタセル点滴静注	↓																											
プロドニン錠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							

ドセタセル：3週間に1回の投与、プロドニン：21日間毎日内服します。

コース：3週間の治療です。

ドセタセル+プレートン療法【泌尿器】

よく起こる副作用

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

●感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など

●貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など

●出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなる場合がありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★末梢神経障害

発生時期 治療開始日から数週間後にあらわれることがあります。通常数コース投与後に発現することが多いです。

症状 指先や足のうらがびりびりする、感覚がにぶくなる等の症状が起こります。味覚異常などが現れることもあります。

対処法 ○転倒に注意しましょう。熱いものや刃物を扱うときにはけがをしないように十分注意しましょう。
○もしも、車の運転で不安なことが現れた場合は、運転を避けるようにしたほうが良いでしょう。
○症状がひどいときには漢方薬やビタミン剤が処方されることがあります。

★関節痛・筋肉痛

発生時期 主に薬剤投与日～5日目位までですが、まれに持続することもあります。

症状 筋肉や関節が痛くなります。

対処法 ○痛みに応じて鎮痛薬を使用することがあります。

★脱毛

発生時期 治療開始日から2～3週間後に始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。

症状 徐々に抜け毛が多くなり、2ヶ月以内でほぼ抜けてしまいます。場合によりまつ毛や体毛も抜けることがあります。

対処法 ○今のところ有効な防止策はありません。髪を短くカットされておいた方が良いでしょう。
○市販のウィッグやバンダナ、帽子などで、おしゃれを楽しむ気持ちをお持ちいただけたらと考えます。（ウィッグに関する資料については、看護師にご相談ください。）
○化学療法中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けて下さい。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★過敏症

発生時期 薬剤投与開始直後～1時間以内まで(特に10分以内)

症状 顔のほてり、赤み、じんましん、かゆみ、息苦しさ等の症状が現れます。

対処法 ○治療薬を投与する前に、過敏症を防ぐ点滴を行います。しかし、点滴直後や点滴中に気になる症状が現れた場合には、すぐに看護師に知らせてください。

★血管外漏出

発生時期 薬剤投与中～数日後

症状 注射をしている時に針が入っている部分を中心に、皮膚がはれ、赤みを帯びたり痛みを生じたりします。薬剤によっては、初めは軽い痛みでも、徐々に痛みが増し数日後には激痛を伴う水疱に増悪する場合があります。

対処法 ○注射がもれた場合には速い対処が必要となりますので、ご自身でも異常がないか観察し、針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みや発赤などありましたら、すぐにお知らせください。
○投与中は針を刺している腕をあまり動かさないようにしましょう。
○帰宅したあとに針をさした部分に痛みや腫れが現われた場合にも、病院に連絡してください。

その他の副作用

★その他

症状 悪心、食欲不振、むくみ、手足の炎症、下痢、便秘、口内炎、倦怠感、色素沈着 等

対処法 ○必要に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院 (薬剤部)

